



兵庫県高等学校教職員組合調査部
TEL : 078-341-6745
FAX : 078-351-3185
URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>
mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

「核兵器のない世界」への転機に



核政策も戦争法案も根っこは同じ

アメリカによって広島と長崎に原爆が投下されてから70年目の夏、8月4日～9日に広島市、長崎市において、2015年原水爆禁止世界大会が行われ、兵庫高教組からは約10名が参加しました。戦後70年目という節目の年であり、そして第9回NPT再検討会議が開かれた年でもある2015年を「核兵器のない世界」への転機としたい、その決意を全国、全世界から持ち寄って大会は開催されました。

また、今大会は、参議院で「戦争法案」が審議されている中で行われました。「核政策も『戦争法案』も根っこではつながっている」という発言もありました。核廃絶と「戦争法案」反対とが一体となった世界大会となりました。

「核廃絶には市民の力の助けこそが必要」

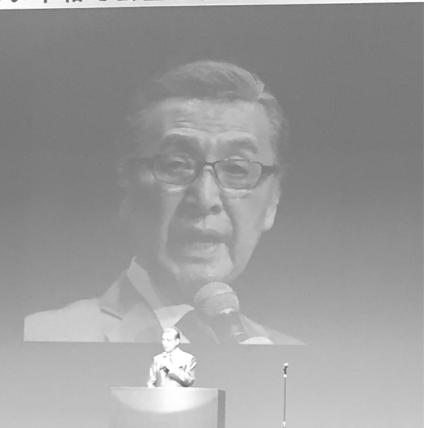
開会総会では全世界から約3300人が参加（6日のヒロシマデー集会には5500人が参加）し、政府代表あいさつとしてインドネシア国連常駐代表のデスラ・ブルチャヤ大使が以下のような発言をしました。

- ・みなさんの核廃絶への運動は草の根運動はどうあるべきかの手本である。
- ・核廃絶には市民の助けが必要である。
- ・核兵器に毎年350億ドル使われているが、国民の利益を守るために必要なお金か？答えはNoであり、まったく意味がない。
- ・過去の教訓から学べば、核兵器などどこにも居場所がないことは明らかだ。

「安倍さん、もう白旗をお上げなさい」 宝田明さんがあいさつ

また、俳優の宝田明さんが、あいさつに駆けつけてくれました。そして映画「ゴジラ」が、当時の東映の反戦へのメッセージであることを紹介したあと、「戦争法案」にふれ、「安倍さんに申しあげます。もう白旗をお上げなさい」と語り、会場が大きな拍手に包まれました。

爆撃禁止2015年世界大会
ない平和で公正な世界のためにー被



被爆者の方の声を未来へ　ー私たちの責任ー

被爆者の方の平均年齢は80歳を超える。被爆者が少なくなる中、勇気を出して語り始めた方もいます。以下は被爆者の方の声です。

- ・姉が背中に大やけどを負い、ウジ虫が無数にわき、「いたいからやめて」と叫ぶ姉の背中から、割り箸でウジ虫を取り除いていた両親の姿が忘れられない。しかし、その甲斐なく、姉は亡くなった。
- ・2歳で被爆をして、父は遺骨も見つからず、母はひどいやけどで亡くなった。次女の姉は「口減らし」のために16歳で結婚させられ、長女の姉は結核を患った。身寄りもなくなり、それ以来、親類をたらい回しにされ、耐えられず、自殺しようとも思った。

被爆者の方の多くが、安倍首相が本当に自分たちの苦しみや被爆の実相をわかってくれているのか、なぜまた戦争へと向かっているのか、と語っておられました。私たちは、被爆者の声と被爆の実相を未来へと語り継ぎ、戦争のない、平和の世界を築いていかなければなりません。

「安倍首相は知性で色づけられた想像力が欠如している」 分科会より

以下は分科会での発言の紹介です。

- ・辺野古のゲート前に通い続けているが、警察からは犯罪者扱いされる。さらに、警察による排除によって、転倒し頭を強く打った女性に対しても、邪魔だからと、安静にさせるどころかすぐに動かし、「救急車も呼ぶ必要ない」と言う。人間扱いされていない。
(沖縄からの参加者)
- ・安倍首相は知性に色づけられた想像力、特に戦争に対する想像力が圧倒的に欠如している。戦争で死ぬということなどいうことなのかがわかっていない。(学生)
- ・アメリカでは動物が驚くからということで米軍の訓練飛行をしないとアメリカ人から聞いた。なのに日本では行われる。日本人はアメリカの動物以下なのか。(広島からの参加者)

全国教職員投票に寄せられた「ひとこと」

- ・2度と戦場に教え子を送らないというのが、戦後の教師たちの出発だったと学びました。過去の教師たちからのバトンを途切れさせてはいけない。
- ・私一人でできることは、小さな小さなことかもしれないけれど、何か行動を起こさないと、という思いでペンをとりました。
- ・このままでは、ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争、アフガン戦争のような戦争にも加わることになってしまう。現在議論されている「安保法制」は明白に憲法違反だ。